

株式会社 Sanko IB、スマートビルディング EXPO【東京展】に人間を主体とした ビルディング・オートメーション・システムを株式会社日立システムズと共同で出展 データセンター、ホテル、オフィスの要件に合わせたスマート化をご提案

通信、IT、ビルディング・オートメーション技術のリーディングカンパニーである株式会社 Sanko IB（本社：東京都港区、代表取締役社長アチュリ・カベラ・ウィリアム）は、2019年12月11日（水）～13日（金）<10:00～18:00（最終日は17:00まで）>の期間、青海展示棟で開催される、第4回スマートビルディング EXPO【東京展】に、ITからオートメーションまで幅広いハイスキルエンジニアリング、テクニカルサポートを提供するITサービス企業の株式会社日立システムズと共同で出展（小間番号：20-40）します。



会場では「HUMAN CENTRIC BUILDING AUTOMATION（人間を主体としたビルディング・オートメーション）」をテーマに、ビル内の空調・照明・セキュリティ機器等のシステムを1つのネットワークで統合し、ビル全体の管理・中央監視によるオペレーションの効率化、ビルのパフォーマンスを最適化するビルディング・オートメーションシステム「スマートデータセンター」、『スマートホテル』、『スマートオフィス』それぞれの環境に応じた形で展示します。また、それらの基盤となる『インフラストラクチャ』として、産業用スイッチやケーブル、コンピューティングプラットフォームの展示もおこないます。

テストページです

これらのビルディング・オートメーションを構築するミドルウェアが、世界75カ国以上の国と地域で導入実績のある【Niagara Framework®】とエネルギー管理を主体とした【EcoStruxure™ Building（エコストラクチャビルディング）】です。

【Niagara Framework®】は、LonWorks、BACnet、Modbus、oBIXなどの標準ネットワークプロトコルに対応し、多様な機器やシステムとの統合が可能であり、ビル1棟から築年数の異なる複数ビルまで、統合的な管理、制御、中央監視をおこない、ビル内の全てのエンドポイントをシームレスに統合します。Niagara Framework®は、ほぼすべての組み込み機器またはシステムに接続できるオープンなJavaおよびHTML5ベースのフレームワークで、ドラッグ&ドロップで構築できるグラフィカルツールが含まれているため、直感的にアセットを管理することが可能です。



【EcoStruxure™ Building（エコストラクチャビルディング）】は、Schneider Electric（シュナイダーエレクトリック）が提供する住宅、ビル、データセンター、インフラストラクチャ、各種産業における、プラグアンドプレイでオープンな、IoTプラットフォームで、主にエネルギー管理を得意としています。Niagara Framework®同様に多様な機器やシステムを統合し、一つのネットワーク上でビルの監視、管理、制御をおこなうことで、ビルのパフォーマンスの最適化、業務効率化（ワンクリックレポート、スケジューリング、アラーム機能等）を実現します。ソフトウェアだけでなく、拡張を見据えた専用のハードウェアなどを包括的にご提供可能です。

